

JR 折尾駅の価値

九州共立大学 名誉教授 尾道建二

1. 歴史的価値

- (1) 近代国家の建設に貢献した石炭産業の象徴的施設である。
- (2) 石炭産業によって繁栄し、北九州市の西部地域の中心地となった折尾の象徴的施設である。(北九州の都市形成史上の歴史的施設)
- (3) 筑豊で産出した石炭を若松へ運び出す水運から鉄道輸送に変わった近代産業の歴史を伝える駅舎で、運河に面にした駅舎である。

2. 建築的価値

- (1) 大正初期の木造2階建ての駅舎は極めて少なく、希少価値を有する。
(現存する木造2階の駅舎は、日光駅、門司港駅、原宿駅だけ)
- (2) 大正初期の建築意匠を有する歴史的建築である。
(大正初期に流行った日本的なハーフティンバー様式である)
- (3) 大正初期の構造様式で造られた建築である。
(鉄筋を用いた木造トラスで、木造トラスからの変遷過程上にある)
- (4) 日本初の立体交差駅で立体交差に対応した駅舎である。
- (5) 折尾の町並みと地域住民の視線を意識して駅舎正面が設計された。

3. 総括

JR 折尾駅舎は歴史的価値と建築的価値を有するもので、文化財に指定されるべき北九州市の歴史的文化的遺産と言える。